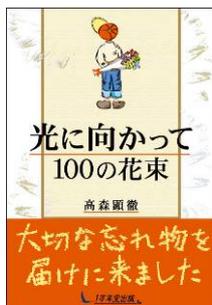




あかほしのりひろ 赤星憲広(プロ野球選手・阪神タイガース)

- 刈谷市出身
- ★ 二〇〇一年ドラフト4位で阪神タイガース入団
- ★ 盗塁王五年連続五回、ベストナイン二回、ゴールデン
クラブ賞六回

わたしの一冊



▼書名 光に向かって100の花束

▼著者 高森顕徹

▼出版社 一万年堂出版

本の紹介

おおぶこうこう 大府高校の野球部には冬休みに読書感想文の宿題があり、その課題図書
 になっていたのが、この「光に向かって100の花束」です。僕は本を読む
 ことはあまり得意なほうではなかったのですが、始めの方は仕方なく読んでいま
 したが、読んでいくうちにいつの間にか引き込まれていきました。

この本はいろいろな偉人のエピソードやおとぎ話などを百話集めたもの
 で、一話が長くても五ページほどなので読みやすく、本が苦手な人にはおす
 めです。

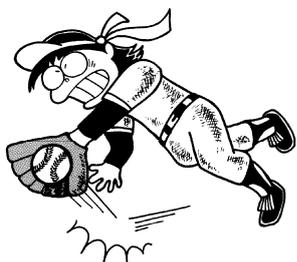
それぞれの話に人生を豊かに生きていくための教訓やヒントがわかりや

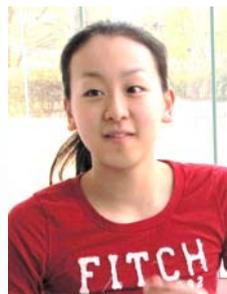
小中学生のみなさんへ

すく表現してあり、自分の考え方を考えようという気にさせてくれます。
 この本を読めば、きつと氣に入ると思うので是非一度読んでみてください。

みなさんの中には僕があまり苦労も悩みもなく今まで生きてきたと思っ
 ている人が多いかもしれません。しかし、僕は人並み以上に失敗や挫折を味
 わってきました。体が小さいという理由でよい評価が得られなかったこと
 や甲子園で二年連続タイムリーエラーをしたことなど、数えたらきりがあり
 ません。

野球は失敗のスポーツと言われます。一流といわれる三割バッターでも
 十回のうち七回はうまく打てずに終わります。失敗に
 引きずられない。失敗を恐れない。失敗に強い選手が
 いい選手になっていきます。そして、これは野球に限つ
 た話ではありません。「成功」の反対は「失敗」ではな
 く、「何もしない」ことです。たとえ失敗してもきつと
 得るものはあるので、みなさんには勇氣を出して「一
 歩」を踏み出してほしいと思います。





あさだ まお

浅田真央(フィギュアスケート選手)

- 名古屋市在住 中京大学在学
- ★ 全日本ジュニア選手権優勝(H16)。世界ジュニア選手権優勝(H17)。グランプリファイナル優勝(H17、20)。全日本選手権優勝(H18、H20)。世界選手権優勝、四大陸選手権優勝(H20)。
- ★ JOCスポーツ賞最優秀賞、愛知県スポーツ功労賞、国際競技大会優秀者表彰、中日体育賞等の各賞受賞。

わたしの一冊



▼書名 明日もまた生きていこう

—十八歳でがん宣告を受けた私—

▼著者 横山友美佳

▼出版社 マガジンハウス

本の紹介

※この文章はインタビューをもとにまとめたものです。

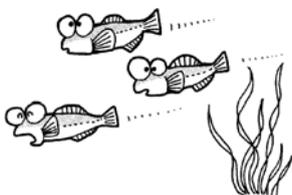
● 最近どのような本を読んでいますか。

乙武さんの本とか、病気の子の本(「アシユリー」アシユリー・ヘギ著)とか、イチローさんに関する本(「イチロー式集中力」児玉光雄著)などです。「アシユリー」というのは十倍くらいの速さで歳をとってしまうという難病になった子の本です。実際にあった話を読むことが多いです。特に心に残っている本で、小中学生にすすめたい本は何ですか。いちばん最近読んだ本で、バレーボールの選手だったけれど、白血病で亡くなってしまったという人の本です。横山さんは、自分と同じ年で、自分と同じように夢に向かって頑張っていたのに病気になってしまいます。それで

も、自分ができることに努力して、大学受験にも合格しているのです。ガンとたたかいたいながらも、今やれることに取り組み、精一杯生きようとしている姿にとても心を打たれました。私と同じようにオリンピック出場という夢をもっている人のことだからなおさら感じるところがありました。

小中学生のみなさんへ

● 小中学生の子たちに伝えたいことはどんなことですか。
幼稚園から今までずっとスケートをやってきたのですが、小学生のときに長野五輪を見てから、ずっとオリンピックに出る金メダルをとるといって夢をもってやってきているので、みんなにも何か一つ夢をもってやってほしいと思います。そのためには、毎日少しでもいろいろなことができるように目標をもつといいと思います。今日はこれを何回やるとか、これが二回は跳べるようにするなどといったように。苦しいときやつらいときもありますが、それが生活の一部になれば、そんなに苦しくは感じませんし、私は楽しくスケートをやっているの、あまりつらいと感じたことはありません。みなさんも、挑戦していることを楽しんでみるといいと思います。





あべなつまる 阿部夏丸(小説家)

■ 豊田市在住

★ デビュー作「泣けない魚たち」で、坪田譲治賞と椋鳩十児童文学賞を受賞。「おたまじゃくしのうんどうかい」で、ひろすけ童話賞受賞。

★ 「ライギョのきゆうしよく」「うそつき大ちゃん」は青少年読書感想文全国コンクール課題図書に選定。

わたしの一冊

▼ 書名 イヌのヒロシ

▼ 著者 三木卓

▼ 出版社 理論社



本の紹介

この本の表紙に描かれている正面顔のイヌがヒロシです。とぼけた顔をしています。なかなか味わい深いやつです。ヒロシは作品の中で、アリとラグビーをした。空と海のおしやべりをきいたり、サイダーやショウウユともお話をします。

ヒロシは飼い犬ですが、心はいつも自由です。ぼくは、おひとよしのヒロシの物語を読んで、何度もくすくすと笑い、のんびりとした気分になりました。

とにかく、心がゴムマリののように柔らかくはなずむ、そんな本です。



小中学生のみなさんへ

ぼくは小説家ですが、子供たちに無理やり読書をすすめる大人が嫌いです。だって「本を一〇〇冊読んでも本を一〇〇冊読んだ人になるだけ」だということ、知っているからです。決して本を読んだだけでは、いい人にも、かっこいい人にもなれません。

大切なのは、柔らかい頭を持ち、ポンとはずむ心で考えることです。ものごとを深く考えることには、いくら時間をかけても、おこづかいはいりませんし、誰からも文句はいわれません。そう、自由なのです。この自由な気持ち(思考)は、間違いなく君たちの財産になるはずですよ。

ですから、本を読むことも、映画を見ることも、音楽を聞くことも、テレビで漫才を見ることが、スポーツをやることも、虫を捕まえることも、魚釣りをすることも、おならをして人を笑わせることも同じ。いろんなことをやっつて、たくさん考えて、幸せになってください。

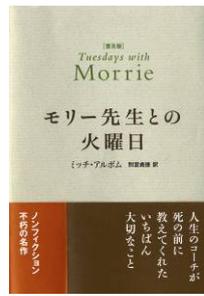
本が嫌いな子は、ぼくの書いた本を買(借)りなさい。読みたくなるまで読まなくていいし、枕にしたり、押し花を作ってもいいよ。だって、ぼくも、子供のとき、本を読むのが大嫌いだったからね。そのうち、読みたくなるさ。



あまの 天野ひろゆき(漫才師・キャイーン)

- 岡崎市出身
- ★ 一九九一年「キャイーン」結成
- ★ 人気お笑いコンビとして数々のテレビ番組に出演するほか、ラジオ・映画・舞台・歌などでも活躍。また、映画監督や執筆活動に取り組むなど多彩な才能を発揮。現在も人気番組「リンカーン」をはじめ多数出演中。

わたしの一冊



- ▼書名 モリー先生との火曜日
- ▼著者 ミッチ・アルボム／作 別宮貞徳／訳
- ▼出版社 NHK出版

本の紹介

この本は難病に侵され死期が迫る大学教授に、かつての教え子が毎週火曜日に最後の授業を受けに行くという物語です。

死ぬことを受け入れることにより真剣に人生に取り組むモリーは、生きていくことを当たり前だと感じがちな我々より、はるかに明快な答えを返していきます。

例えば、『死』、『家族』、『社会』、『人生の意味』などなど。この本にはその答えが載っています。



小中学生のみなさんへ

僕がこの本を薦めるのは、みんなの経験値ではなかなか答えを出せない質問の答えが、たくさん載っているからです。

例えば、今あるいじめの問題！
主人公のモリーは、常に自分の肩に小鳥を止まらせていると思ひ、何か行動する時は、その小鳥に、

『自分はすべきことをやっているか？』
『なりたいたいと思う人間になっているか？』
と、質問するのです。

今、僕も実はそれを実践していて、そうやって常に客観的に自分を見ることで自分の行動のブレがなくなり、流されることもなくなった気がします。今、いじめを受けていて、死を選択しようとしている人がいるなら、死についてもう一度真剣に考えてもらいたい。するとそれはいかに生きるかということにつながっていることが理解できるはずですよ。

死を受け入れることで、すべてを許し、強く生きるモリーの生き様をこの本を通して学んでください。



伊藤彰浩(義津屋代表取締役)

- 津島市出身
- ★ 慶応大卒
- ★ 第一勧業銀行入行 (H3)
- ★ 株式会社義津屋入社 (H10) 同社代表取締役副社長 (H15)
- ★ 同社代表取締役社長 (H16)

わたしの一冊



- ▼書名 坂の上の雲
- ▼著者 司馬遼太郎
- ▼出版社 文藝春秋

本の紹介

この本の舞台は、明治維新から日露戦争までの約四十年間。日本陸軍騎兵隊の生みの親である秋山好古、日本海海戦での大勝利に貢献した海軍参謀である真之の兄弟と、そして彼らと同郷出身の俳人であり、真之の親友でもあった正岡子規の三人を通して、明治維新、開国間もない日本が、当時の先進国である欧米列強諸国に、追いつこうと一生懸命がんばった姿が描かれています。国家、民族存亡の危機に追い込まれた、極東の小さな新興国である日本が、欧米列強、先進国であるロシアに戦争で勝利します。その訳は、当時の国民ひとりひとりが、貧しい生活の中でも、一流国の仲間入りを目指して夢や理想を追い求めたことによるものです。

小中学生のみなさんへ

素直に、懸命に

今から百年ほど前に、日本は国家、民族の存亡を懸けて、当時の大国であるロシアと戦い勝利しました。例えると、相撲で、赤ちゃんが横綱に勝ってしまったようなものです。なぜ、そんなことができたのでしょうか。それは、明治時代の先輩たちが、将来の日本に自分たちの夢を託し、「素直に、懸命に」がんばったからです。

我々は、今、何不自由なく暮らしています。しかし、あのときの先輩たちががんばりがなければと考えると恐ろしくなります。皆さんの毎日の生活の中でも、いろいろなことがあると思います。「素直に、懸命に」がんばれば、どんな夢だって叶います。私は、この本を読んでそんなことを思いました。皆さんも、大きな夢に向かって「素直に、懸命に」がんばってください。きつとその夢は叶います。

その他の紹介図書

◆「木のいのち 木のこころ(天・地・人)」
(西岡常一、小川三夫、塩野米松) 新潮社





伊藤翔(プロサッカー選手)

- 春日井市出身 中京大中京高校卒
- ★ グルノーブル・フット38(フランス)所属
- ★ 高校卒業と同時に海外クラブに入団した初めての日本人選手。十五歳から各世代の代表に選出される。
- ★ 二〇〇六年アジアユース選手権大会に出場。

わたしの一冊



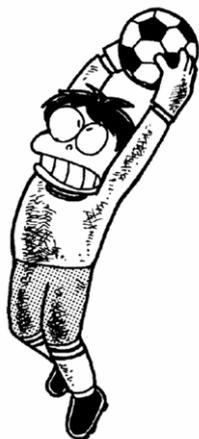
- ▼ 書名 100%幸せな1%の人々
- ▼ 著者 小林正観
- ▼ 出版社 中経出版

本の紹介

幸せというのは自分で掴み取るものだと思います。でも、この本を読んでそうではないと感じました。幸せに正解はなく、自分自身が幸せだと思えば、それが幸せだからです。本書に五体満足であること自体幸せだということが書いてあり、自分なりに風邪に置きかえて話を考えてみました。風邪の時は、熱が上がるし体はだるく、つらいですよ。その時に普段元気に生活できることって幸せなんだな、ありがたいんだな、と思うことができます。そのように考えていくと、生きている事って幸せだなと思えるようになります。小さな幸せが大きな幸せにつながっていく気がしました。

小中学生のみなさんへ

子供の頃、親に「感謝が足りない。」とよく言われました。その頃は、毎日学校に行って、帰って遊んで、やりたくなかった習い事をさせられたり、感謝どころではありませんでした。しかし、今、冷静になって考えてみると、嫌々やっていたことも、やりたくてもできなかった人にとっては羨ましく見えたのかもしれない。遊びや習い事から帰ってきたら、母が料理を作ってくれている。小中学生の皆さんも今は当たり前かもしれないけれど、明日を保障されている人間なんていないので、今のうちに感謝を口に出しておくの良いかもしれません。でもやっぱり照れますよね。自分は今、フランスで一人暮らしをしています。改めて親がいて、母が毎日朝ごはんや弁当、夕食を作ってくれていたことに感謝しました。当たり前のことなのに幸せを感じて、そして、その当たり前前の幸せに感謝し、生きていきたいと思えます。みんなも頑張ってください！





いとだじゅん
井戸田潤(漫才師・スピードワゴン)

- 小牧市出身
- ★ 「スピードワゴン」のツッコミ役担当。
- ★ 平成十年コンビ結成。「M-1グランプリ」決勝進出(H14、15)。爆笑オンエアバトルチャンピオン大会ファイナル2位など、実力派漫才師として活躍。
- ★ 「熱血!平成教育学院」「にっぽん熱中クラブ」などのレギュラー番組のほか、コンビ、単独での出演多数。

わたしの一冊



- ▼書名 三国志(新装版)
- ▼著者 吉川英治
- ▼出版社 講談社

本を紹介

※この文章はインタビューをもとにまとめたものです。

- これまで読んだ本で印象に残っているものは何ですか。
本はあまり読まないけど、五、六年前に読んだ「三国志」だけは好きで、一か月くらいで全部読みました。
- 三国志のどんなところに魅力を感じられたのですか。
登場人物がみんなカッコいいんですよね。天才がいっぱい出てくるんですよ。三国志って三つの国が争うわけじゃないですか。どこも自分たちの信念があつてやっているのですよね。どこも間違いないけど、どこも正解じゃないというところがなんだかいいですね。
- 三国志の登場人物でいちばん好きな人はだれですか。
僕は関羽(かんう)が好きですね。関羽は冷静沉着で、武力もあつて賢

小中学生のみなさんへ

- 小中学生の子たちに伝えたいことはどのようなことですか。
本音を言った方がいいと思います。大学生や高校生なんかと一緒になることがあるのだけど、話せない人が多いかなと思います。そうすると物事を進めたり、打ちとけたりするのも時間がかかるから、最初から「僕はこうしたい。ああしたい。」ということを言った方がいいと思います。僕もどちらかということあまり人と話せない方なのですが、自分の気持ちや考えを伝えていくということは必要だと思えます。
- そのほかには、この仕事をやっていて、ネタをやったりテレビに出てクイズをやったり、歌を歌ったりしますが、そうすると、もつともつといういろんなことに触れておけばよかったなあということを思います。だから、みなさんも今のうちに是非いろいろなことを体験しておくといいと思います。



伊奈輝三(INAX名誉会長)

- 常滑市在住
- ★ 東京工業大学卒
- ★ 株式会社 INAX 入社 (S 35)
- ★ 同社取締役社長 (S 55)、同社取締役会長 (H 8)
- ★ 常滑商工会議所会頭 (H 10)

わたしの一冊



▼書名 名作へのパスポート
「世界の文学案内」

▼著者 こやま峰子

▼出版社 金の星社

世界の名作を読みましよう

本の紹介

この本は古くから世界中の人に読まれてきた十五編の名作を紹介した本です。

その物語のあらすじはもちろん、その作品を書いた作者や、その作品にまつわるエピソードなど、多くのことが書かれています。

また、その作品の舞台となっている地方の美しい風景などの写真もついでいて作品への興味が一層ふくらみます。

しかし、この本を読んだだけでは、これらの作品の本当の良さを知ることができません。この本を手がかりにして、興味をもった作品を手にして読んでみてください。きっとその物語に感動することでしょう。それが出発点と

なって、ほかの名作にふれることになればすばらしいですね。

小中学生のみなさんへ

本を読んで感動しましょう

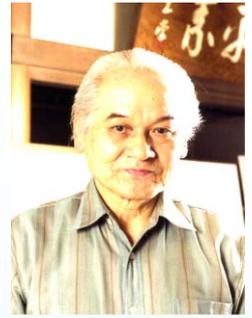
本で読んだ事がらから深い感動を受け、それがいつまでも記憶に残ることがあります。場合によっては、それがその人のものの考え方や生き方に、大きな影響を与えることさえあるでしょう。

本の持つている力はそれほど大きなものです。皆さんが成長していくにつれて、自分自身の考えで発言したり、行動したりすることが重要になります。

たくさん本を読むことによって、知らず知らずのうちに、自分の力でものごとを正しく判断することができるようになります。今のうちから、読書の習慣を身につけておくことは、あなたの人生にとってすばらしい財産になることは間違いありません。

その他の紹介図書

◆「子どもに語る日本の昔話(全三巻)」「(稲田和子、筒井悦子)」「こぐま社



宇佐美江中（日本画家）

■ 蟹江町出身

- ★ 日展13回入選（特選2回）。日春展8回入選（日春賞2回）。外務省買上5回
- ★ 日展「涅槃」にて文部大臣賞受賞（H9）。
- ★ 名古屋芸術大学客員教授 日展理事

わたしの一冊



▼書名 二十四の瞳

▼著者 壺井栄

▼出版社 新潮社

本を紹介

師の情愛と平和の尊さ

小豆島の名を耳にすると、すぐに「二十四の瞳」のことを思い起こします。本も映画も見ました。

私が少年のころ、間接とはいえ戦争体験をした者として、島の分教場の若い先生と教え子がおりなす、おおらかで屈託のない行動は、ほほえましくうらやましいほどの光景でした。しかし、一層戦争がはげしくなり出征してゆく教え子を見送る大石先生の心情、月日が経つ間もなく「生きてもどつてくるのよ。」と送り出したのに、五人のうち二人しかもどることが出来なかった。我が子いやそれ以上の愛情をそそいだ結果のこの非情。こちらまで胸をしめつけられた記憶がよみがえります。平和の中に生きる少年たちに

平和の尊さを知っていただきたく、一読をおすすめします。

小中学生のみなさんへ

一生の道

自分が一生の道として探し求めるのはやさしくもむつかしいことです。しかし、急ぐことはないにしても早い方が良いと思います。なによりもその道が心から好きであることが一番大切ですね。そして年を重ねることにむつかしいことは次々に迫りますが、それらを解決する最大の助けとなるのは、その道の初期の段階で、しっかりと基礎ができていくかどうかです。この道に進んで良かったと思えるかが決まります。途中で、その大切さに気付いても悪くはないにしても時間が足りないと感じます。基礎、基礎、あくまで基礎の勉強を大切にしてください。それは師から人々から、そして本から広く勉強したいと思えます。基礎の有無は、その人の人生の試金石ともなりましよう。

その他の紹介図書

◆「人生論」（トルストイ／作 中村融／訳）岩波書店



梅原猛（哲学者）

うめはらたけし

- 一歳から旧制中学卒業まで南知多町
- ★ 立命館大学教授、京都市立芸術大学学長、国際日本文化研究センター初代所長を経て、現在、同センター顧問。
- ★ 文化勲章受章（H11）
- ★ 「隠された十字架 法隆寺論」（毎日出版文化賞）、「水底の歌 柿本人麿論」（大佛次郎賞）など著書多数。

わたしの一冊



▼書名 坊っちゃん

▼著者 夏目漱石

▼出版社 新潮社

本の紹介

小中学生のみなさんへ

私は小学校五年生のときに父の書齋から夏目漱石の小説集を取り出し、「坊っちゃん」を読んだ。そのときの感動が今も忘れられない。江戸っ子のほか正直な坊っちゃんが松山の中学校の先生として赴任し、校長の「狸」や教頭の「赤シャツ」ばかりか、悪知恵にたけた生徒たちからいじめられる話は甚だおもしろかった。私はげらげら笑いながら何度もこの小説を読んだが、坊っちゃんという世にも正直で純情な先生が次々と難に会い、会津出身の教師「山嵐」とともに赤シャツを殴ったものの、ついに松山を去らねばならなくなったくらいでは義憤の涙をこぼした。

夏目漱石の数ある小説のなかでも、「坊っちゃん」はいちばん分かりやす

く、いちばんよく読まれている。私は、「坊っちゃん」を漱石のもっともすぐれた小説であると思っている。その後、私は中学四年のころに文学少年となり、それまで好きであった数学を捨てて、現在のような文章を書く学者になった。近ごろの少年はあまり本を読まなくなったと聞いている。インターネット時代になって、もはや読書は昔の習慣となった感がある。しかし私は少年たちに読書を薦めたい。自然の本でも、科学の本でも、歴史の本でも、小説でもよい。現代の人間が知るべきことはたくさんある。読書によつて、自然のすばらしさ、科学のおもしろさ、歴史の複雑さ、人間の喜び悲しみをすることは甚だ大切である。

ジャンルは何でもよい。好きで好きで仕方がないという本を少年時代からもってほしいと私は思う。

